

不審者侵入時の危機管理マニュアル

◆チェック1 不審者かどうか、入室したら確認！ 子ども達を1か所に集める！

- | | |
|------|--|
| ポイント | ① 地域や利用者関係の方かどうかのチェック
② 声をかけて用件を尋ねる。
③ 不自然に施設内に入ろうとしていないか。
④ 凶器や不審なものを持っていないか。
⑤ 不自然な行動や暴力的な態度はみられないか。 |
|------|--|

対応

出入り口の限定

- ⇒ 施設出入口以外のドアは原則として施錠する。
・ 避難口…裏口ドア・指導室内窓

現状確認の目印設置

- ⇒ 施設出・入口付近に身体確認の印を確認する。
・ 送迎を理由にした場合は氏名・来所時間の記録をする。

防犯設備

- ⇒ 非常用の（ホイッスル）
・ 指導員所持

対応

退去を求める

- ⇒ 不審者侵入時の職員の役割分担に従い、他の職員に連絡し、協力を求める。
⇒ 言葉や相手の態度に注意しながら、丁寧に退去するよう説得する。
・ 相手に対応する時は、身を守るために1メートルから1.5メートル離れる。

次のような場合

・ 不審者として「110番」通報する。

- ⇒ 静止を無視し、無理に立ち入ろうとする。
⇒ 退去の説得に応じようとしない。
⇒ 暴力的な言動をする。

◆出来るなら、近隣に大声で助けを求める！ 「たすけて～」

◆子どもの状態確認を確認する。（人数含む）

チェック2 危害を加える恐れはないか

ポイント ① 所持品に注意する。

- ・ 刃物
- ・ 銃
- ・ 大きな荷物（異常なふくらみ）
- ・ 棒
- ・ 灯油やガソリンのような液体

- 対応**
- ・ 凶器を所持していたら、直ちに「110番」通報する。
 - ・ 不審者が興奮しないように、丁寧に落ち着いて対応し、警察が到着するのを待つ。
 - ・ 凶器を隠し持っている場合もあるので、手の動きに注意する。

- 対応** 通報 <「110番」通報の要領>
- ① 局番無しの「110」をダイヤル（携帯電話・PHSも同じ）
 - ② 例 ○○です。
男（女）が侵入して暴れています。
子どもが怪我をしました。直ちにきてください。
 - ③ その後は、質問に答える形で
通報者氏名、場所、電話番号などを伝える。
 - ④ 「110番」通報をしている場合は、救急車が連動して手配されるが、重複しても良いので「119番」通報する。

対応 警察「110番」に通報するとともに、職員に周知する。

対応 児童の安全を守る。

- ① 防御（暴力の抑止と被害の防止）する。
 - ・ 応援を求める。⇒ 大声を出す。ホイッスル使用
⇒ 警報装置や通報機器等で知らせる。
 - ・ 身近なもので不審者との距離をとり、移動を阻止する。
⇒ モップ等の清掃用品消火器
⇒ 机、椅子など近くにあるもの
- ② 児童を掌握し、安全を守る。
 - ・ 小学校に電話連絡し、応援を頼む。
 - ・ NPO法人ワーカーズコープ南部事業本部へ電話連絡し、応援を頼む。
 - ・ 施設内外の巡視をする。
- ③ 避難の誘導をする。
 - ・ 施設内への侵入などの緊急性が低い場合は、すぐ避難できるように、児童を施設内で待機させる。
 - ・ 施設内等への侵入の恐れがある場合には、児童と不審者の間に職員が入り、両者を引き離し、児童を事務室など大人のいる場所に避難させる。

- ・ 避難の指示がある場合はそれに従う。施設内に不審者が侵入した場合には、指示がなくとも児童が避難できるよう訓練しておく

チェック3 負傷者がいるかどうか

ポイント ① 負傷者がいるかどうか把握し、

対応

◆事務室に情報を集約する。

- ・ 携帯電話を活用して、連絡しあう。
- ・ 必要に応じて、全員を集合させ怪我の有無を掌握する。

対応

◆応急手当などをする。

- ① 負傷者がいたら、まず容態を観察し、同時に応援を依頼する。
 - ・ 周囲の安全確保 ⇒ 倒れている場所が安全かどうかを確認し、危険な場所ならば安全な場所に移動する。
 - ・ 出血の観察 ⇒ 出血があったらすぐ止血する。
 - ・ 救急車の要請 ⇒ まず意識の有無を確認し、近くの人に協力を求めて救急車を呼ぶ。
 - ・ 口の中の異物の除去
 - ・ 気道の確保 ⇒ 意識が無い時は呼吸がしやすいように気道を確保する。
 - ・ 呼吸の確認 ⇒ 呼吸がとまっていたらすぐ人工呼吸をする。
 - ・ 循環のサインの観察 ⇒ 循環のサインが無い時は、人工呼吸にあわせて心臓マッサージを行う。
- ② 応急手当に着手するとともに、他の者に依頼し「119番」通報する。
 - ・ 搬送者、搬送先を記録して、保護者に連絡する。
 - ・ 教務は情報を整理し、必要に応じて活用する。
- ③ 大出血している場合は、心肺蘇生法の前に、圧迫したり、負傷部位より心臓に近いところを縛ったりして止血する。
- ④ 呼吸をしていない場合は人工呼吸を、心肺蘇生法を実施する。